

受付

8.3.-2

議会事務局
総務課

令和8年 3月 2日

京丹後市議会議長 様

会派名 翔和会
代表 多賀野 一彦

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1. 日程 令和7年10月28日(火)
2. 場所
 - (1) 近畿地方整備局 大阪市中央区大手前3-1-41 大手前合同庁舎
 - (2) 近畿中部防衛局 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎2号館
 - (3) 京都府建設交通部 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
3. 目的
 - ① 山陰近畿自動車道の早期全線事業化に向けて、近畿地方整備局並びに京都府に対して要望活動を行う。
 - ② 緊急輸送道路に指定されている国道及び府道の整備事業について、事業主体である京都府並びにその財源支援を行っている防衛省に対して事業支援を要望する。
4. 該当する政務活動費の用途項目
要請・陳情費
5. 支出経費の内訳と金額 9,177円
(内訳: レンタカー 5,150円、燃料代 947円、高速料金 3,080円)
6. 参加議員名
多賀野 一彦、山本 佑太、由利 彰基
7. 調査・研究成果の概要、所見
研究報告書 (資料1)

要請・陳情活動 成果報告書 (資料1)

日時 令和7年10月28日(火)

場所

- (1) 近畿地方整備局 大阪市中央区大手前3-1-41 大手前合同庁舎
- (2) 近畿中部防衛局 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎2号館
- (3) 京都府建設交通部 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

要望先

- (1) 近畿地方整備局 東岡 正樹 地域道路調整官(局長代理)
- (2) 近畿中部防衛局 丸山 幹夫 局長
- (3) 京都府建設交通部

1. 要請・陳情の目的

- ① 山陰近畿自動車道の早期全線事業化に向けて、近畿地方整備局並びに京都府に対して要望活動を行う。
- ② 緊急輸送道路に指定されている国道及び府道の整備事業について、事業主体である京都府並びにその財源支援を行っている防衛省に対して事業支援を要望する。

2. 要望・陳情活動の内容

まず、近畿地方整備局、東岡地域道路調整官局長代理へ要望活動を行った。先方からは、山陰近畿自動車道に未整備区間(ミッシングリンク)が残存することにより、広域ネットワークが分断されている現状への理解が示され、特に日本海沿岸地域における道路整備への期待が極めて高いとの認識を伺った。これに対し、当局として現在進捗中の事業を計画通り、遅滞なく着実に推進するとの力強い回答を得た。また、近年の自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、防災・減災の観点から、国道178号および312号が有する災害時の代替路(リダンダンシー)機能、救急搬送、物資輸送路としての重要性を改めて強調。高規格道路の整備が、市民の命と暮らしを守る上で不可欠であることを訴えた。最後に、事業推進の最終段階における一部用地取得の課題について、引き続き地域住民への丁寧な説明を通じて理解を求めつつ、国と府、そして地元が一層緊密に連携していくことで共通認識を形成した。

次に、近畿中部防衛局へ伺い丸山局長に要望書を提出した。米軍経ヶ岬通信所の設置に伴い、本市の厳しい財政状況下において、再編交付金や各種補助事業として多額の財源が措置されていることに深く感謝を申し上げた。これらの交付金が、農林水産業の生

産性向上、教育環境の充実、医療・防災体制の強化といった、市民生活の根幹を支える分野で具体的な成果を上げていることを報告した。加えて、京都府事業として府道浜丹後線宮バイパスおよび府道間人大宮線の大門橋が完成したことにより、住民の利便性向上と安全確保が図られたことへの謝意を伝えた。現在進行中の上野・平バイパスの早期完成、外村バイパスの整備推進、そして海岸線の脆弱区間を代替する国道 178 号「仮称・屏風岩橋」の事業化など、いずれも市民の生活に直結する防衛関連事業の着実な推進を重ねて要望した。また、米軍基地内の隊舎整備が進んだことで、隊員の皆様が「良き隣人」として地域活動にも貢献いただいていることに対し、改めて感謝の意を述べた。

最後は、京都府へ行き、西脇知事宛の要望書を建設交通部石井部長に提出をした。京都府へは財政支援の要望に加え早期実現にお力添えを賜りたい旨をお伝えした。現在、大宮インター付近の工事が目に分かるよう進捗しており、国の直轄権限代行での一日も早い峰山インターまでの供用開始をしていただきたい旨を申し上げた。京都府からも現在進めている工事をはじめ、その先の道路計画がまだない箇所についてはまず、事業計画に乗せていく努力と前向きな答弁がいただけた。令和 7 年度から有料化となるり、いただいた料金でしっかりと早期整備をしていきたいことも伺った。それに応じて本市としてのまちづくりのビジョンを具体的に明示できるようにしていく必要があるとも伺った。そして最後に県境からのアプローチと両府県が一丸となって下から突きあげていただきたいとの助言もいただいた。

3. 所見

- (1) 近畿地方整備局との協議を通じ、山陰近畿自動車道のミッシングリンクが、本市を含む日本海沿岸地域の広域的な連結性を著しく阻害し、災害等による寸断リスクに脆弱な状況を改めて認識した。この道路は、市民の日常生活や経済活動を支えるだけでなく、有事の際の救急医療、防災、そして広域的なリダンダンシー確保の観点から極めて高い戦略的価値を持つ。近年の災害の激甚化を踏まえ、国土強靱化の観点から、国がより一層積極的な事業展開を行うことを強く期待する。
- (2) 近畿中部防衛局関連の事業は、本市のインフラ整備に不可欠な役割を担っている。令和 3 年度末に完成した宮バイパスや大門橋に続き、現在進行中の事業も着実に進捗している。特に、上野・平バイパスは宇川地域の孤立化を防ぐ生活生命線であり、府道網野岩滝線の外村バイパスは北部医療センターへのアクセスを保証する「命の道」として、地元の期待は極めて大きい。また、国道 178 号「仮称・屏風岩橋」は、海岸浸食や越波に対する脆弱区間を解消する上で不可欠な事業である。これら生活に密着した道路整備に加え、本市の財政状況では単独実施が困難な市民福祉向上のための財源をいただいていることに、重ねて感謝の意を表するものである。
- (3) 京都府建設交通部では、現在本市では多くの緊急輸送道路の整備と事業が進捗している。令和 4 年度には木津バイパス、野中バイパスが完成した。今年度は五箇バイ

パスと西廻り線の事業化もしていただき地元住民の安心安全につながるものとして感謝申し上げます。今後の要望活動においても熱意をもって積極的に行っていきたい。

山陰近畿自動車道の全線事業化に向けて、地元住民も一緒になって声を上げる必要がある。地元希望ルート帯の具体的な動きが見えてくる中、地域産業の振興や観光振興につながる道として自発的な動きが求められる。